

令和7年度坂部小学校学校経営構想

I 歴史と伝統

明治5年(1872年)「学制」の発布を受け、翌6年(1873年)7月16日、坂部村久翁寺に青池学校分校「中里村学校」が設立された。これが本校の始まり(創立)である。そして、明治26年(1893年)1月31日、現在の場所に坂部尋常小学校校舎を新築し、本校開校となった。(令和5年(2023年)1月で開校130周年)地域の人々は、人材の育成を重んじ、教育に深い理解を示し続けている。それを象徴するのが、大正8年(1919年)10月に制定され、以来百年余にわたり歌い継がれてきた校歌である。本校校歌は、まだ学校に校歌がなかった時代に先んじて作られた。「熱心 勤勉 質朴を 村是としたるわが村の」「おしえのさとし 身にしめて」「いざや励まん 文の道」という歌詞には、当時の人々の思いとともに、先進性と教育にかける情熱が込められている。

平成4年(1992年)、坂部工業団地が本格的に操業を始め、平成21年(2009年)には富士山静岡空港が開港した。各所に工場や事務所が作られ、道路整備とともに地元企業に勤める人が多くなり、交通量も増加してきた。農家には、茶・みかん・米・レタスに加え、新たな商品作物を栽培しようとする機運があり、地域全体で情熱と誇りを持って農業の活性化に取り組んでいる。豊かな自然や進取と堅実な地域風土の中で、学校を支える基盤としての地域の存在は、確固としたものがある。

本校教育に脈々と流れる精神は、校歌にある村是「熱心 勤勉 質朴」の心の他、校章に込められた「勉学 気品 有為」の心、40年間続いている「仲よし学校(※)」の「感謝 思いやり がまん」の精神に表れている。これらを坂部小学校の教育の礎とし代々受け継がれてきた伝統を大切にするとともに教育の動向を鑑みながら、更に創造発展させて未来につなげていきたい。

※令和5年度から、教職員と保護者、地域が、協力・連携を図り、「誰一人として取り残さない教育の推進並びに持続可能な教育活動」を目指し、全校児童参加型の学校行事「令和の坂部型『仲よし学校』」として位置づけ、リニューアルした。(令和2、3、4年度の「仲よし学校」は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の対応として「仲よしウォーキング」に変更(R2.11.21、R3.11.20、R5.3.4))

II 坂部の実態

1 地域の実態

- ・坂部区には約800世帯が居を構え、1町内から6町内に分かれている。町内によっては、児童数の減少がみられる。
- ・3世代家族が多い。
- ・地域の方々は、学校への協力をおしまない。
- ・空港隣接事業による「道路整備」や「道の駅」構想などの土地開発が急激に進んでいる。これにより、大型トラック等の往来が激しくなっている。

2 児童の実態

- ・素直で明るく、何事にも真面目に取り組むことができる。
- ・学年間の絆をこえた強いつながりがある。
- ・困っている人がいると優しく声を掛けたり手をさしのべたりできる。
- ・「人が好き」「学校が好き」「坂部が好き」な子が多く、それぞれを大切にしている。
- ・坂部しぐさ「くつそろえ」「傘閉じ」がよくできる。
- ・与えられたことには真面目に取り組むが、試行錯誤しながら根気強く最後まで考え

たり、そこから新しいものを生み出したりするなど、主体的に取り組むことの苦手な子が多い。

- ・相手の考えを反応しながら最後まで聞くこと、相手意識を持って自分の考えを堂々と話すことの苦手な子が多い。
- ・学習の基礎・基本の定着は向上しているが、不十分な子がいる。
- ・6年間で体力的には成長が見られるものの精神的にたくましさ欠缺の子が多い。
- ・朝、業間、昼休みに遊具や運動場等で友達と遊ぶ子が多いが、保健室に来室するようなケガが増加している。

Ⅲ 教育課題

子供たちの学びの充実や学校生活の安定には理由がある。教員の、関わる子供たちとその保護者への温かさをもった理解、それに基づく、それぞれの創造性を十分に発揮した支援や指導などの日々の積み重ねに他ならない。この充実・安定した学校運営の持続のための基盤となるのが、教育活動における「安心・安全」と「信頼」であり、その上での令和7年度の教育課題は次の6点である。

- 1 「子どもはかけがえのない存在である」ことを意識し、教師を含む大人が人権意識を高く持ち指導に当たるとともに、人権教育を通して、子供同士がお互いの存在を大切に作る風土を築いていく。
- 2 様々な特性を持った子への個に応じた柔軟な対応と心のこもった関わり（誰一人取り残さない教育、発達支持的生徒指導並びに特別支援教育の充実）
- 3 「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、課題となっている「深い学び」を追究するとともに、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。また、それを支える基礎・基本の定着を図る（1人1台端末の活用も含めて）
- 4 学校と地域がともに笑顔と活力にあふれるコミュニティ・スクールの推進（学校運営協議会の充実）
- 5 「次代を切り拓く力」を育むためのキャリア教育を軸とした榛原中学校区内小中一貫教育の着実な推進（9年間で子供を育てる意識の共有化、令和12年度の学校再編を見据えて）
- 6 ケガの急増による影響が懸念されることから、予防的観点において、子供たち自ら考え、判断できるようになるための危険予知に関する学びの推進

Ⅳ 経営理念

- 1 全職員が全校児童の担任（支援者・指導者）
小規模校である本校の強みを生かし、「支援員等を含めた全職員が全校児童の担任である」という意識を持って情報共有をする。個や集団の「よさを見つけ、引き出し、価値づけ、広めていく」生徒指導の基本に立ち返り、子供理解、保護者理解に努め、足並みのそろった温かな指導に努める。
- 2 目指す姿の明確化
目指す姿（育てたい資質・能力とその具体的な姿）を明確にし、一つ一つの取組についての成果と課題を明らかにすることで、PDCAサイクルをまわしていく。
- 3 組織で動くこと
目指す姿は一つであっても、そのための手段や方法は様々である。職員一人一人の持ち味を生かし、考えを出し合うとともに、対話を通して納得解・最適解を創り出す

ことで、より強い組織づくりを目指す。

V 目指す学校像とその主な手立て

学校とは 楽しいところである
挑戦するところである
学習と生活の基礎を練るところである
仲間と力を合わせ「宝」を創造するところである

- 1 人権意識を持ちながら、互いの「よさ」や「違い」を認めるとともに、誰もが勇んで（心が奮い立つ、力がわいてはりきる）向かいたくなる安心・安全な学校を目指す。

そのために、

まずは、自分自身が健康である

自分を理解してくれる優しさと厳しさを持った友達、学級、先生がいる（安心感）

何でも話せる先生がいる（ほめる、認める、支える・相談にのる、温かな指導）

楽しい授業がある、安心して考えを発言できる、授業の中に新たな発見がある

授業が分かる（基礎・基本の定着）

自己実現（夢中になって学び、遊ぶこと）のできる場がある

学校と家庭がつながっている（家庭・地域も子供を安心して送り出せる）

子供も職員も笑顔であふれている

→児童理解と個に応じた支援の充実

→危機管理意識を高める

- 2 「学校教育の中心は『授業』である」という基本理念のもと、「主体的・対話的で深い学び」の実現から、授業の中で子供が輝く学校を目指す。

→学習指導要領や令和の日本型学校教育の趣旨を踏まえた授業実践と研修の充実

→「授業が楽しい」「授業が分かる」、確実な基礎・基本の定着に結びつく取組

- 3 地域とともに歩むことで、地域を愛し、地域に愛され信頼される学校を目指す。

→地域の材「ひと・もの・こと」の活用、コミュニティ・スクールの推進【Ⅷ－４】

Ⅵ 目指す子供像

- 1 しっかりと話を聞き、相手や目的に応じて自分の考えを表現する子
- 2 ねばり強く問題を解決したり、考えを深めたりする子
- 3 他者との関わりを通して、自分や相手のよさを見つめ、感謝の気持ちと思いやりの心を持って接する子
- 4 地域を誇りに思い、地域を愛する子

Ⅶ 学校教育目標、育てたい資質・能力、重点目標

- 1 学校教育目標 「心豊かで たくましい坂部の子」

< 心豊か > ・自らを律しつつ、相手と協調し、相手を思いやることができる
・真理を追究し、美しいものに感動する

< たくましい > ・自ら考え、最後までやり抜き、自分の言動に責任を持つ
・より高い価値をめざして挑戦する
・何事にも柔軟に対応し、困難に負けないしなやかさを持つ

- 2 育てたい資質・能力（牧之原市学校再編計画より）

牧之原市で育てたい資質・能力は、「次代を切り拓く力（社会がどのように変化しても生き抜くことができる人間力と、新しい価値観や新しいことを創造する力を併せ持ったもの）」である。具体的には次の七つとなる。現在推進している「学びと育ちをつなぐ小中連携―小中一貫を見据えた連携―」より本校における「育てたい資質・能力」を本市とそろえた。

- (1) 生きる力の基礎・基本（心身のたくましさ、自己肯定感や命の大切さなど、人が生きていく上で大切な部分：坂部しぐさ 等）
 - 自己理解：自己理解を深め、自分らしい生き方や成功を追求する。
 - 判断力：自らにふさわしい選択・決定を行う。
- (2) 基礎的な知識・技能（学校などで学ぶ知識や技能のことであり、考え、行動する上での基礎・基本となる力）
 - 学ぶこと・働くことの意義や役割の理解：学校で学ぶこと社会・職業生活との関連で理解する。
 - 教科等の授業で身に付ける知識や技能
- (3) 課題発見・解決力（疑問を持ち、自分で考え、他者と協働して、解決に向けて行動したり、新たな価値を生み出したりすることができる力）
 - 課題発見：現状を分析し目的や課題を明らかにする
 - レジリエンス：困難な状況でもしなやかに対応する
 - 実行力：課題解決に取り組む
- (4) 多様性を受容する力（自分自身を知り、他者（社会）には様々な価値観や文化、背景、立場があることを理解し、受け入れることができる力：思いやり 等）
 - 他者理解：他者の多様な個性を理解し、互いに認め合う
 - 多様性の理解：職業や勤労に対する広範な見方・考え方を持つ
 - チームビルディング：他者と協調・協働して行動できる
- (5) コミュニケーション力（相互に思いや考えを伝え合い、聴き合い、共感しながらよりよい関係を築く力）
 - 他者への働きかけ：他人に働きかけ巻き込む
 - コミュニケーション力：多様な集団・組織の中で豊かな人間関係を築く
- (6) 活用力（自分が学習したことや得た情報等を、実生活や自分の将来に活かすことができる力）
 - 情報の理解・選択・処理：必要な情報を選択・活用し、自己の生き方を考える
 - 将来設計：様々な選択肢について比較検討をし、自らにふさわしい選択・決定を行う
- (7) 創り出す力（新しい考えやアイデアを創り出し、主体的に実行する力）
 - 計画立案：課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備をする
 - 主体性：物事に進んで取り組む

特に、この中で令和6年度は、「(1) 生きる力の基礎・基本」と「(2) 基礎的な知識・技能」を窓口として捉えながら、その他の育てたい資質・能力を教科等横断的な視点で育ていけるように、組織的に配列しながら教育課程を編成していきたい。

【榛原地区小中一貫教育 窓口とする資質・能力（令和7年度）】

(1) 生きる力の基礎・基本 (2) 基礎的な知識・技能

3 重点目標 「夢中になって ともに取り組む子」

令和元年度までは、自己肯定感を高めるために「自己のよさ」に視点をあて、よさ見つけや称揚といった教育活動を進めてきた。

令和元年度からは、本校児童の重点課題である「主体性」を身に付けさせたいという願いから、重点目標を「夢中になって取り組む子」とした。物事に「夢中」になって取り組むことで、更に次への主体的な態度につなげたいと考えたからである。そこで、「夢中」になって取り組ませるための手立てとして、子供から出された問いを学習問題として提示したり、子供の実態や思いから「夢中」になるための支援の工夫に努めたりしたことで、自主性へとつながった。

令和4年度からは、重点目標を「夢中になって ともに取り組む子」とした。これまで同様、「夢中」になって取り組むことで自主的な姿から主体的な姿へと高めていくとともに、これまでの重点目標が個に視点を当てたものであったのに対して他者を巻き込んだ「夢中」でもありたいという願いから、「ともに」を加えた。個が夢中になって取り組み、そこから他者と関わり、集団とし

て「ともに」夢中になることで、個の成長から集団の成長へとつなげたいと考えたのである。

そして、令和6年度までの振り返りとして、関わりを通した「夢中」の姿をさらに追究するために、令和7年度も重点目標を継続していく。特に、関わりを通した「夢中」の姿をより高めるために、「最後まで聞く」「(そこから)自分の考えを持つ」「自分の言葉で話す」ことをベースとして、学習の場、生活の場で具体的取組を進めたい。

＜参考：主体性と自主性＞

主体性とは、「何をやるかは決まっていない状況でも、自分の意志や判断で責任を持って行動する態度」である。例えば、あいさつをしようとする人が、「職場環境をよくする目的」から、あいさつ以外に朝礼を企画するなどの行動を起こす人。

これに対して自主性とは、「明確に定まっていることを、人に言われる前に率先して自らやる態度」である。例えば、あいさつをする際に、周りの人に率先して元氣よくあいさつすることができる人。

Ⅷ 経営の重点

1 【チーム坂小】「ふるさと坂部を愛する気持ち」づくり

学校、家庭、地域が連携し、信頼される学校をつくとともに、感謝の気持ちを通してふるさと坂部を愛する心を育てる。(信頼と絆)

○学校運営協議会を機能させたコミュニティ・スクールの推進

- ・学校・家庭・地域と連携した「ふるさと坂部体験」や地域の材「ひと・もの・こと」を活かした「ふるさと坂部学習」の推進（坂部の魅力発見）
- ・里やまの会、クラブ活動、読み聞かせボランティア、施設等との交流、仲よし学校（令和6年11月に第40回を全員参加型の学校行事「令和の坂部型『仲よし学校』」として実施）
- ・学校運営協議会による教育活動の充実

○教職員自らが、率先垂範を心掛ける。

○家庭やSC、SSW、外部機関等と連携した教育支援

- ・保護者との対話を通じた関係づくり
- ・SCやSSW、専門職員を活用して特別な支援を要する子とその保護者への継続的支援を進める。

○お便りやHP等を活用した情報発信

○令和7年1月31日開校132周年（歴史と伝統を受け継ぐとともに未来につなげる）

2 「学び」づくり

学ぶことを楽しいと感じ、自ら追究し、共に学び合おうとする力を育てる。

○「学校教育の中心は『授業』である」という基本理念のもと、主体的・対話的で深い学びの実現を目指し、「深い学び」の手立てを追究するなど、教材研究を通して魅力ある授業づくりに努めるとともに、「聞く（反応する）、考える、話す」を更に意識した授業を構想する。（研修の充実）

- ・子供主体の学習（自分ごととしての学び）の創造
- ・学習指導要領を踏まえ「主体的・対話的で深い学び」の実現のために、課題となっている「深い学び」を追究するとともに、全ての子供たちの可能性を引き出す「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させる。また、それを支える基礎・基本の定着を図る
- ・1人1台端末を取り入れた授業の工夫（ICT教育の推進）
- ・【準備】令和8年度 地区教科等研修会（英語・外国語活動）
- ・【準備】令和9年度 地区教育研究発表会（学校給食）、地区教科等研修会（社会科）

○学習内容の基礎・基本の定着

- ・国語科、算数科の基礎的学習内容の定着を図る（朝「モジュール10（仮）」導入）
- ・家庭学習の充実（熱心・勤勉・質朴ノートの活用）とその見届け

○「ふるさと坂部学習プラン」に基づいた総合的な学習の時間

○自己理解を基に、夢や希望をもって将来の生き方や生活を考え、積極的に将来を設計するキャリア教育

○情報活用能力の育成（基礎となる情報手段の基本的な操作の習得）及び、小中9年間を見通した情報モラル教育の確実な実施

3 「心と体」づくり

自ら関わり、互いの「よさ」や「違い」を認め合える力、健康や安全について考え、ともに鍛える力を育てる。る力、健康や安全について考え、ともに鍛える力を育てる。

○児童理解と個に応じた支援の充実（坂部っ子を語る会、打合せ等による情報共有）

○「よさ」や「違い」を認め、誰もが生き生きと活躍できる共生社会づくり

- ・特別支援教育の理解とその考えを生かした授業や活動の充実
- ・特別支援学級や福祉施設等との交流を通じた思いやりの心の育成（ふれあいサロン、民生委員学校訪問等）
- ・縦割り活動による異学年交流

○自尊感情を高める活動（よさ見つけ等）

○坂部しぐさの継承と発展（子供たちの手で本物の自慢に）

- ・あいさつしぐさ（自然なあいさつ）、きれいな言葉しぐさ、そうじしぐさ（心をみがくそうじ：取組の工夫）、ろうか歩きしぐさ、靴そろえしぐさ、傘とじしぐさ

○教育活動全体を通じた道徳性の育成

○子供の創意を生かし「楽しい学校づくり」「よりよい学校づくり」を目指した児童会

活動の充実

- 安全に関する指導の充実（ケガ予防のための危険予知指導、防災・防犯指導、交通安全指導の徹底）
- 体力・健康づくりに関する指導（外遊びの奨励、感染症予防）
- 食に関する指導（給食指導・食に関する指導）

4 「働きやすい環境」づくり

笑顔があふれ、語り合い磨き合える職員集団をつくる。（チーム坂小）

- 誰一人として欠かすことのできない教職員一人ひとりの存在を大切にする。
- 「未来の学校」を考え、語り合える職員室
坂部小学校の教職員の働き方や子供に対する支援や指導は、客観的に進路及び将来の職業を考える学生にとって、選択肢の一つとなり得る魅力ある教職現場となっているか。
- 教職員の勤務環境改善のための学校の働き方改革（業務改善、教職員の意識改革等）を積極的に推進する。（「ニカニカ日課」導入など）

5 9年間のつながりを意識した榛原中学校区内小中一貫教育の推進（未来に向けて）

- 社会で生きていくために必要な力を身に付けるキャリア教育の推進
- 小中教職員合同研修、小中や小小の児童・生徒交流活動
- 義務教育学校に向けた部会活動